

1等、2等米コスト差の再調査を約束

農水食糧部長に規格削除申し入れ

「米の検査規格の見直しを求める会」は6月16日、農林水産省総合食料局の奥原正明食糧部長と懇談、農薬過剰散布の原因となつている「着色粒」規格を削除するように求めた。

同会のメンバーである食政策センタービジョン21の安田節子氏は、前日に行われた「斑点米を食べてみる会」の様子を報告、「消費者も斑点米の

ことを知って、着色粒規
定は不要だと言っている」
「等級検査が農薬散布を
過剰にしている」と規格
の見直し、削除を求めた。

これに対し奥原部長は
「農薬は使わないほうが
良いという気持ちはわか
る。しかし、消費者が農

めではなく、流通業者の
ためのものである。1等
米、2等米は卸が売の時
の取引の規格。価格差が
あるのは、2等米は選別
機にかける際にコストが

はスピードは変わらない
ので1等米と2等米の選
別コストの差は数十円で
しかない。農水省の試算
のように500円もの差
はありえない」と反論。

家から直接購入する場合
は良いが、スーパーで購
入した米に斑点米が入っ
ていたらどうなのか」
「等級検査は消費者のた

かかると。米屋はそ
れをブランドして販売し
ている」と答えた。

これに対し「生き物共
生農業を進める会」の今
野茂樹氏は「農水省のコ
スト計算は間違いないで
ある。この選別機械は1%ま

「コストが違わないので
あれば1等、2等と差を
つける理由はなく。そこ
は調べてみるしかない」として、コストに関
して再調査することを約
束した。

反農薬東京グループ代
表の辻万千子氏は「斑点
米規格があるので農薬は
3倍くらい使っている。
いもち病より多いくらい
だ。価格差はむしろ農薬
価格の差ではないのか」
と述べた。

今野氏は「農民は規格
があるので使いたくなく
ても農薬をまかざるを得
ない状況に追い込まれて
いる」、規格は不要であ
ると言った。

「見直しを求める会」
が再調査にどのくらいの
時間がかかるか質問した
ところ、奥原部長は再調
査に2カ月ほどかかるだ
ろう、調査後にまた話し
合いを持ちたい、として
この日の懇談を終えた。



「見直しを求める会」のメンバー（右側）と懇談する
奥原食糧部長（左端）